



迎春

2024年12月15日撮

ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

おやさまの年祭まであと一年

あけましておめでとう御座います。
昨年は、私共一同にとりまして、真に大きな節をお見せ頂きましたが、悲しみに心を倒さず、いよいよ最後の一年となりました年祭活動を最後まで真剣に勤めて、人だけに心を働かせ、足を運ばせて頂きたいと思えます。

私共信仰者の日々はその全てが、たすけ一条の心を作る為の積み重ね。

人がたすかかって下されば、人が喜んで下されば自分は結構ですと、低い心をだんだん身に付けさせて頂き、自らの欲から離れた分だけ、親神様から不思議な御守護をお見せ頂けるものと信じているのです。

おちば、上級へ足を運び、おたすけ先へ足を運んで、私共の足跡が、親神様のお通り下さる「道」となるまで、精一杯動かせて頂きたいと思えますので、本年もどうぞ宜しくお願い致します。

大教会長 藤田大和

お知らせ
大教会春季大祭 1月15日(水) 9時30分
大祭後、進級進学お願いづとめ
本部春季大祭 26日(日)
少年会年頭幹部会 27日(月)

各部各会あいさつ

昨年もおちばにお帰りくださり、別席を運ばれ、また、修養科人科、教人資格講習会受講をいただき、心より感謝申し上げます。

本年は、教祖百四十年祭の年祭活動三年目、昨年9月の布教強調月間は多くの教会が実動していただきましたが、本年も本部より打ち出されていますので計画、実動をよろしくお願い致します。

また、本部は、にをいがけミーティング、教区でもにをいがけ実動を開催しておりますが、大教会も昨年より毎月布教実動日を設けておりますので、ぜひ一度ご参加ください。

なお、おさづけの理拝戴に關しましては、昨年同様、大教会長様とご相談の上での対応となります。ご希望の際はお気軽にご連絡ください。
布教部 高橋太志

昨年は婦人会活動の上に、お勤め頂きありがとうございました。
婦人会活動の成人目標、活動方

針は、昨年、おとしに引き続き同じでございます。

今年の天理教婦人会第107回総会は、総ての会員がおちばへ人を誘っておちばへとお打ち出しされています。チラシを活用させて頂き互いに声をかけあい、誘いあつておちばへと帰らせて頂きたいと思えます。

また、今年は夕張支部婦人会総会が50回目を迎えます。一人でも多くの方にご参加頂き共に喜びあえる日となるようにしたいと存じます。

本年もよろしくお願い致します。
婦人会 藤田美由紀

あけましておめでとうございます。

昨年は分会総会を賑やかに勤める事が出来、また本部総会では二年連続となる模擬店を出店、色んな会員さん達と充実した時間を過ごす事が出来ました。豚丼を求めて大行列が並んだ光景は、壮観の一言でした。

教祖百四十年祭の三年千日の最

終年となりますが、1月に新委員長に交代となり、新たな委員会が始まります。高橋新委員長を中心に、会員の皆さんがわくわくするような活動や企画を準備中です。どうぞご期待下さい。

今年も青年会夕張分会の活動にご理解ご協力の程、よろしくお願ひします。 青年会 藤崎 勇

日々は少年会活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。行事での出会いを通じて仲良くなり、次回の再会を約束したり、期待しながら活動に参加してくれる子供の姿に心温まる思いを抱いています。行事の度毎それぞれ教会からのお力添えに感謝いたします。

今年も多くの育成会員の力をお借りし、子どもたちみんなが楽しめる活動を準備させていただきました。それをきっかけに、各教会でのこども会やおつとめ練習など、少年会の集まりが一度でも多く開かれることを願っています。

また、夏のおぢばへ一人でも多くの子どもたちが帰れるよう推進しますので育成にご協力をお願いいたします。 少年会 藤田 豊

自我が強くと芽生える学生会層に信仰を伝えることは、容易なことではありませんが、そんなときにこそ、親神様、教祖にもたれ、お

ぢばへ帰り、親の息をかけていたでくことで、お導きいただけの徳を頂戴したく存じます。

私自身も、天理高校で過ごした時間が、道を歩む上で大きな心の糧になっていると、今になって感じております。

なにかご相談ありましたら、お気軽にお声がけいただき、学生担当委員会と各教会、各ご家庭が力を合わせて、道を歩む人材の育成に、喜びと楽しみをもつてつとめさせていただきますたく存じます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。 学生担当委員会 岩佐善昭

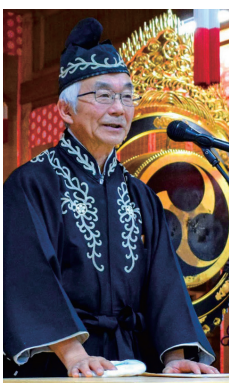
十一月月次祭の様様

11月の月次祭は新穀感謝祭を兼ねており、神前には色とりどりの秋の実りと共に、各教会信者からお供えになった新米が高なして積み上げられていた。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。

おつとめが終わると直ぐに復旧がなされ、引き続き秋の霊大祭が、大教会長を祭主に執り行われた。この度は、直轄信者の稲垣勝幸さんが合祀され、家族・関係者が参拝した。その後、各教会・各会の代表が順々に、霊様の前で参拝した。

講話には藤崎実役員が立ち「大

教会の前会長さんの思い出をしばらく語らせていただきます。まず一つ目、これは昭和50年3月、私がちょうど天理高校を卒業して、大学受験に帰ってきた時です。受験から発表まで時間があつたので、お礼の参拝に大教会へ行くと、前会長さんが『お前を待ってたんだ』と言うんですね。これが前会長さんの藤田マジックつてやつなんです。『今度青年会の総会で劇をやるんだが、弟役がないから、お前やってくれ』と。兄役は好道さん、文雄さんが漁師の父親役で、お姉ちゃん役が大谷啓子さんでした。この劇を見た、という人いますか？もう、一人か二人しか残ってないですね。



台本を完璧に覚えた、とみんな言うんですね。凄いな、と思つてたんですが、始まる前に衣装を着たり、化粧をしたりと準備をしている時に、文雄さんと顔を合わせると、おでこに皺が寄つて、頭も白髪交じりで、気合の入つたメイクをしていました。それを見て、みんなびっくりしてセリフが飛んじやつて、誰もまともにセリフを

言えないんですね。舞台袖から峰

延の卓一さんが、役者にセリフを教えるんですけど、その度に一番前列の子供たちが『あ、また忘れた』つて言うんです。どんな内容だったか忘れましたが、最後に『お父さん、僕修養科に行くよ』というセリフで幕が降りるような劇だったかと思ひます。

次は列車の中でした。教祖九十年祭生おぢばがえりといふので、『北海道からもたくさんおぢばがえりをするから、お前も一緒に行こう』と誘われたんですね。特急『白鳥』に乗つて、僕の横の空いた席にパッと文雄さんが座る訳ですよ。『お前がいてくれて、ちょうど良かった』と言うんですね。『実は教

区の学生会の委員長というのが今いないんだね、おぢばへ行つたら本部学生会委員長のところに行つて、挨拶をするだけ。あとは何もしなくていいから、まあ名前だけだと思つて、やつてくれ』と言つて、引受けません、と答えました。そしたら、おぢばに着いたら団体長というところに『藤崎実』つてもう書いてあるんですね。いや、参つたなつてね。本当に文雄先生はそんな人たらして、人を褒めて持ち上げて、いい気持ちにさせて動かす、というところがありました。だから、私もよく乗せられた訳で

すよね。 最後になりますが、去年の6月、私が詰所で教養掛を勤めている時、20時過ぎに、前会長さんが『もうすぐ天理に着くから迎えに来てくれないか』という電話でした。大

教会の祭典直前です。『天理にいる直轄の信者さんが入院して、お見舞いするのは今しかない、と思つて来たんだ』というので天理駅まで迎えに行きました。そうしたら次の日の朝4時くらいに、その信者さんの息子さんから『父の容体が悪くて、家族が呼ばれたんです。先生、おたすけに来てくれませんか』と連絡があつたんです。すぐに会長宅に飛んで行つて、前

会長さんを起こし、服を着せて急いで憩の家に連れて行きました。その方はもう本当に虫の息という状態でした。そこで前会長さんがおさづけを取り次ぎました。そして、おぢばさんが、『前会長さん、父が今日を覚えました。よく目を覚ます前に来ましたね、いいところに来ましたね。』と言つたんです。いやいや、前会長さんがおさづけを取り次いだから、目を覚ましたんだよ、という抜群のタイミグに出来るような方でした。帰りの車内で前会長さんが、『母(三十乃奥様)が、お前もつと回らなきやだめだよ、動かなきやだめなんだ、と言つたのが、ずっと心にかかっ

てるんだよ」と仰ってました。それから色々とおたすけにたくさん歩いて、出直される直前まで歩いておられました」と前会長との思い出を語った。

大教会長はいさつで「父は出直しましたが、父のフェイスブックはまだそのまま、過去の投稿が全部見られます。最近の投稿を見ると、兵神大教会の最寄り駅、山陽須磨の駅舎を撮った写真がありました。父は年に二回、兵神に行くことを楽しみにしていました。父の身上を通して、私も最近は何月のようにお参りさせてもらっています。これからも行けるだけ行かせてもらいたいと思っています。



本日、霊大祭を勤めさせて頂きました。夕張は特別にお許しを頂いて、11月に勤めております。まだ交通の手段もほとんどなかった時代、この秋の霊大祭に集まることがなかなか困難ですから、次に会うのは3月の春の霊大祭な訳です。だから、春になったら、またみんな生きて教会で会おうな、と言って先輩方は励ましあつてき

十二月月次祭の様様

たんです。互いに冬の厳しさを知っているから、助け合う心があるのが、夕張のいいところなんだと思います」と話された。

12月も中旬に入ると、一気に冬の厳しさが道民を襲い、連日各地で雪模様となった。岩見沢も数日の積雪であつという間に銀世界となり、5日間で160センチの雪が降り続いた。

迎えた15日も、大教会には朝の時点で20センチ程雪が積もつており、朝方から除雪のショベルの音が響いていた。今年最後の月次祭には多くの参拝者が大教会に集まった。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りつとめ・十二下りのてをどりが勤められた。おつとめの熱気に当てられたか、途中、轟音と共に神殿の屋根の雪が落ち、参拝者も驚きの声を上げていた。

講話には大教会長が壇上に上がり、「昨日まで三日三晩降り続きまして、2日前に、岩見沢は交通が一時麻痺しました。

またインフルエンザが大変猛威を振るい、次男が罹患しました。ようやく熱も落ち着いたところですが、色んなところから、誰それが罹った、学級閉鎖になった、な

どの話が聞こえてきます。これからどんどん冬本番といった季節になっていきます。それぞれどうか、身体には気を付けてお過ごしください。

現在入院中の藤田好道先生ですが、先日前奥さんと一緒に、おたすけに行かせていただきました。先生方の中にもお見舞いに行つてくださった、という話を伺つております。好道先生がメールをくださいまして、『抗がん剤3日目です。きついけど元気です。きついけど喜んでます』という、明るいメールをくださいました。本当に胸が熱くなりました。

また今日は、北網分教会から、大西俊彦さんが来られたので太鼓を勤めて頂きました。北網の会長さんは、今一生懸命になって小学生のお孫さんのおたすけをします。非常に難しい身上のようですが、最近札幌の病院で、これが1つの原因かもしれない、ということを検査をし、そこまで問題がなく長い目で見たら上向いてくるかもしれない、という結果を聞き、大いに私たちも喜んでおります。未来がある大切なお子さんですので、何が何でも元気になつていただきたい、と思つております。

最後に2021年12月の『みちのとも』に載っていたおさしづを紹介いたします。幼少の頃から信仰に

篤かった、増田亀次郎さんというおたすけ人、明治37年に病気がかかって、37歳の若さで出直されたんです。そうすると周りの方々は、ずっとおたすけに回つていた亀次郎がどうして出直してしまったのか、と落ち込み、なぜですかと御本席様に伺いましたおさしづです。

『…人間というは、一代と思つて頼り無い。理は末代の理。これをよう聞き分けて、しっかりと治めてくれ。尽した理は、将来末代の理に受け取りである。理消えやせん程に。理は十分の理である。これを楽しんで、一代の理に悔やしいと思つやない。』(明37・12・31)

一代限りと思つて悔しいだろう。悔しく思つやない。理は消えやない。ここで言う理というのは、僕たちが種まきをした、という事実。親神様が受け取つてくれた誠を尽くした人間の働き、事実は消えやない。そして親神様が受け取つて十分に返す働きがあるよ、という事です。

『…人間というは、早い者もあれば遅い者もある。どんな者もある。これを聞き分けて心に満足せよ。たんのうが第一である。これを前生いんねんのさんげと言ふ。』(同)

です。前生、そのさらに前の人生で、何か今回果たさなきやいけない辛い運命があつたとしても、今回の人生これで満足、これで良かったんだ。亀次郎さんは精一杯やってくれて、これで良かったんだ、親神様がまた新しい体をくれるんだ、と家族が励みにするわけですね。そして前生いんねんのさんげという、そうかこの家族の運命も丸々背負つて、持つてつて帳消しにしてくれたのかもしれないね、という話です。

最後がすこいですが、『これを聞き分けて何も思つやない(同)』。何も不足に思つやない、ということですね。親神様がこうやって、辛いかもしれないけど、思つやない、と。息の長い者も短い者も、今回の人生あるかもしれないけど、親神様は十分受け取つてあるし、その働きは消えやないから、必ず返してくださるから理を信じて通れ、というように受け止めさせていた

いただきました」と話された。



10月25日回廊のきしん

寒さに負けず かりものの身体に感謝して 少年会冬のお楽しみ会

11月30日、冬のお楽しみ会が開催され、少年会員30名、育成会員28名、計58名が参加した。

午前10時、夕張大教会に集合し、親神様、教祖、祖霊様を参拝。藤田豊団長あいさつの後、レクレーション行事のため、さっそく栗沢B&G海洋センター(体育館)に会場を移した。

体育館で行われた、「冬季ユウバリンピック」では、本物のサッカーゴールを使用した「キックターゲット」や、パラリンピックでも採用されている「ポッチャ」など、趣向をこらした7種のアトラクションを配置。子どもたちは、かりもの身体を目一杯使って、各ゲームを夢中になって楽しむあまり、時間はあっという間に過ぎた。

大教会へ戻り、おいしい昼食の時間。テーブルには、プチハンバーガー、フライドポテト、はるさめサラダ、ババロアなど、大好きな



メニューが所狭しと並び、身体を動かしておなかをペコペコの子どもたちは、友だちとの会話とおいしい食事を心ゆくまで楽しんでた。午後は全員で神殿掃除のひのきしん。殿内のぞうきんかけ、また廻廊のゴミ拾いなど、一年間の感謝の思いを込めて、一生懸命にひのきしんに励んでいた。そして、一番のお楽しみ、ドキドキわくわくのビンゴ大会。「ビンゴ!」の掛け声とともに、当たった景品をうれしそうに抱えていた。最後には、神殿で藤田大和育成会長の神様のお話を心のお土産として、またの再会を楽しみに、それぞれの帰路へとついた。

教会創立100年 節目のお祝い続々と

教祖40年祭の前々年にあたる大正13年は、夕張部内教会で最も多くの教会が設立された年(当時は宣教所として11箇所設立)。各教会では、この100年の歩みに想いを馳せ、月次祭が勤められた。



大正 13.9.22 設立
9月10日 北弘分教会



大正 13.11.6 設立
11月10日 南幌分教会



大正 13.12.16 設立
12月6日 幌都分教会

庶務部 11月

- ▽おさづけの理拝戴
- 眞鍋 萌 (祝梅) 11・30
- ▽本部食堂ひのきしん
- 藤田 豊 (幌都) 11・15
- ▽話所ひのきしん
- 山根直樹 (善進道) 11・17
- 山根ふじの (善進道) 11・17

にをいがけ実動について

- ◇活動報告
- 日時：11月23日 10時～15時
- 場所：岩見沢市内
- 参加人数：4名
- 内容：神名流し、戸別訪問(20件)、ひのきしん(冬のお楽しみ会準備)
- ◆次回以降実施予定
- 日時：1月29日 10時～15時
- 2月28日 10時～15時
- 集合場所：夕張大教会

大教会日誌抄

- ▽話所当番
- 12月～3月 梶川創一郎(新生)
- 大久保豪司 (善進道) 11・17
- 大久保あゆみ (善進道) 11・17
- 大久保綾人 (善進道) 11・17

- 11月
- 1日 会長、兵神年祭参列
- 3日 第三回ようぼく一斉活動日
- 4日 会長、支部例会、組例会
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 19日 会長夫妻、札美月次祭
- 23日 会長、おちばへ
- 24日 会長、本部神職当番
- 26日 本部月次祭、遥拝式
- 27日 会長夫人、おちばへ
- 27日 会長、かなめ会
- 27日 会長夫人、本部婦人会例会
- 29日 会長夫人、帰会
- 12月
- 1日 たすけ推進会議
- 4日 支部例会、組例会
- 6日 会長、前会長夫人、幌都分参拝
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 19日 会長、札美月次祭
- 23日 会長、おちばへ
- 24日 会長、本部神職当番
- 26日 本部月次祭、遥拝式
- 28日 会長、帰会
- 28日 大掃除、餅つき

☆ 編集部より ☆

記念行事、イベント、子ども会等、催された教会は編集部までご連絡ください。写真と、記事を掲載させていただきます。